

大阪府立弥生文化博物館 (和泉市)

..... 17

ザ・見遊じあむ

博物館の隣にある池上曾根遺跡公園に
復原された弥生時代の高床式の建物



ラマで再現しています。「米つくりのはじまり」ゾーンでは、水田の再現で稲作を展示しています。「ムラ・クニ・戦い」ゾーンでは、卑弥呼の館を復原しています。本物の卑弥呼の館は今も見つかっていません

日本で唯一の 弥生時代専門の施設

大阪府立弥生文化博物館は、日本で唯一の弥生時代専門の博物館施設です。弥生文化を楽しく知ってもらおうと、1991年(平成3)にオープンしました。第1展示室には6つのテーマゾーンがあります。6つのテーマゾーンの最初は、「目で見る弥生文化」で、弥生時代の食事風景をジオ

土器、などに触れることもできます。来館記念のおみやげでは、卑弥呼グッズ、勾玉グッズ、火おこしセットなどがあります。博物館の外にでると、すぐ近くの公園には、国遺跡の池上曾根遺跡があります。史跡公園になっていて、弥生時代の大型住居建物が復原されています。

ミュージアムメモ

▶所在地/〒594-0083和泉市池上町443▶入館料/一般300円、高・大学生200円、中学生以下、65歳以上は無料▶開館時間/午前10時~午後5時▶休館日/月曜日、年末年始▶交通/阪和線信太山駅から徒歩10分、無料駐車場あり▶問い合わせ/☎0725-46-2162

バブルへGO!!



あの時代に戻って 日本経済を救え

1990年前後に日本列島が舞い踊ったバブル経済。バブルが崩壊し、不良債権で銀行が倒産する時代も経験した日本。それから十数年たった2007年の日本は、格差社会とワーキングプアが大きな問題となっているなかで、国は800兆円もの借金を抱えて危機に瀕した状態です。この日本を救うために、財務省のキャリアが考えた究極の秘

策が、タイムマシンで。当時戻って、バブルの崩壊をストップさせること。キャリアの友人の女性科学者が開発したタイムマシンはドラム式洗濯機を改良したもの。さあ、タイムマシンに乗って、時代をさかのぼって、あのバブル経済をとめることができるでしょうか? こんな、まさにマンガのような映画が、「バブルへGO!」。キャストは財務省の役人が阿部寛、タイムマシンを製作する女性科学者に薬師丸ひろ子、その娘に広末涼子。

赤字バブル最盛期の1990年に戻った母と娘の2人は、ドラム洗濯機型タイムマシンで、現代に戻ってきますが、バブルの拍車をとめて、歴史を修正させてしまったために、現代もまた違った世界になってしまっていました。時の首相はなんと。コメディとして、バブル期の風俗や文化も振り返りながら楽しく映画をご覧ください。

大阪の戦跡を歩く

第16歩

美章園駅の 遭難供養の碑

(大阪市阿倍野区)

1トン爆弾で 駅員と市民が犠牲に

高さ約1mぐらいの「遭難
供養の碑」がひっそりと



上町台地の南部に位置する大阪市阿倍野区界隈は、明治から住宅地として発展してきました。終戦間際の米軍による空襲は、1945年1月3日、2月14日、3月13日、6月1日、6月15日と5回に及びました。3000戸の家屋が消失したといわれています。2月14日の空襲では、米軍のB29爆撃機が阪和

線美章園駅に1トン爆弾を投下。駅員3人とホームにいた市民の数人が犠牲になり、近隣の家屋も吹き飛ばされました。1951年8月24日に、美章園駅員一同によって、駅の高架下にある美章園稲荷神社の横に空襲犠牲者の碑が建てられました。石碑の横面にそのことが刻まれています

撰津
河内
和泉
おおさか
三國誌
17
(堺市区)

浜寺公園と大久保利通

堺市から高石市にかけての臨海部に長く、広大に連なる浜寺公園。日本で最も古い公営の総合公園で1873年の開園です。公園として整備される前は、白砂青松で有名な海水浴場で、阪堺線の駅前、さらに、別荘地ということもあり、大阪近郊での一大レジャースポットでした。その後、名勝の松林を伐採し、住宅地にしようという計画がもちあがりました。このとき、ちょうど堺を訪れていた大久保利通がそれを嘆いて、「音に聞く 高師の浜の浜松も 世のあだ波は のがれざりけり」と詠みました。この歌は、「小倉百人一首」にある祐子内親王



木造の美しい浜寺公園駅舎は町のシンボル

家紀伊の「音に聞く高師の浜のあだ波は かけじや袖の濡れもこそすれ」を踏まえた歌でした。美しい松林が伐採されるのを惜しんだ大久保利通の力と影響で、伐採計画は中止になり、現在まで松林が残っています。この歌は、園内に惜松碑として建てられています。

園内の約5500本の松林は、日本の名松百選に選定されています。ぜひ見てほしいのが、南海電鉄の浜寺公園駅の木造駅舎。1907年(明治40)に完成した国内でもっとも古い現役の洋風駅舎で、今年で100周年を迎えました。柱や梁を壁面に露出させる「ハーフティンバー方式」が特徴です。設計は東京駅はじめ、近代日本の名建築を設計した辰野金吾のチームでした。

西行法師は鎌倉時代初期の歌人。本名は佐藤義清(さとう・のりきよ)。御所をまもる北面武士から、23歳のときに出家。出家後、諸国をまわり、多くの和歌を残しました。同時に、各地での逸話や伝説がたくさん残されていることでも知られています。晩年は河内の国、弘川寺に入り、1190年に73歳で逝きました。表題の和歌は、陰暦の2月16日(現在の3月23日)西行の辞世の歌として知られています。

願わくば 花の下にて春死なん
その如月の望月のころ
西行法師

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

菅原道真(すがらわのみちざね)は平安時代の政治家、学者。とくに漢詩にすぐれ、学問の神様として崇められました。33歳のとき文章博士になりました。宇多天皇のときに右大臣にまで上りますが、藤原時平によって大宰府に左遷させられ、903年2月25日(現在の3月31日)その地で亡くなりました。没後は「天神さん」として全国の天満宮、天神社に祀られています。表題の和歌は、道真が都を去るときのものとして知られています。

東風吹かば におい起こせよ梅の花
あるじなしとて春を忘るな
菅原 道真